

④ 油壺 (新井城址近辺) (Map E-13)

戦国期の「新井城」のあった辺りです。
三浦義同(道寸)は、ここで3年もの持久戦を耐え、最後は自害して、三浦一族は2度目の滅亡にあいます。(新井城落城は、裏面参照)
その血が海面に油のように浮いていた様子が「油壺」の由来との説もあります。

【引橋】(外の引き橋)(内の引き橋) (Map G-13) (Map E-13)
「引橋」という地名も残っています。「引き橋」とは、いざ合戦のときに引き外して敵の侵入を防ぐ働きをする橋のこと。

現在の国道 134 号線の交差点「引橋」付近は、「外の引き橋」。「内の引き橋」は、バス停「油壺温泉」の少し先になる辺りで、北は小網代湾、南は油壺湾が迫り最も狭くなっています。

当時は掘られた空堀に橋がかけられていたといわれています。今も内側に土塁の跡が見られます。

【新井城址と供養塔】(Map E-13)

「新井城址」は京急油壺温泉キャンプパークの南側、油壺湾に突き出たあたりにあります。現在、そのほとんどは「東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所」の中となっています。京急油壺温泉キャンプパークの北側の網網海岸へ下る道の途中には、三浦義同の供養塔があり、自由に散策できます。



内の引き橋付近



⑤ 三崎(海南神社・三御所など)

三浦半島の先端にある三崎は、風光明媚なところといわれ、源頼朝を始め鎌倉期の逸話が各所に残っています。

【海南神社】(Map E-14)

源頼朝挙兵のとき、三浦大介義明は源平の争闘を海南神社に占い、白と赤の狐を闘わせて白い狐が勝ったので、源氏方に加担したと神社縁起に伝えられています。

境内には「頼朝公手植」と伝えられる大銀杏(樹齢約800年)があります。

また、ユネスコ無形文化遺産に指定されている「チャッキラコ」は、三崎の磯に遊んだ頼朝の所望により、里女の歌に合わせて、少女たちが即興的に小竹を叩いて踊ったのがはじまりとの説があります。毎年1月15日に奉納されています。

【光念寺】(Map E-14)

光念寺は和田義盛が開基した浄土宗のお寺です。寺建立のきっかけになった笠籠弁財天は、義盛等が安房へ逃れる際に海上で飢えから救ったという伝説があります。



海南神社



チャッキラコ



【三崎の三御所】(Map E-14) 左図参照

頼朝は三崎を好み、よく来遊したそうです。そのゆかりから三崎には「三御所」と称されるところがあります。現在の「見桃寺(けんとうじ)」の地が桃の御所、「本瑞寺(ほんずいじ)」の地が椿の御所、「本瑞寺(ほんずいじ)」の地が桜の御所です。本瑞寺だけが、今も桜を愛でることができるようです。



③ 衣笠・大矢部(満昌寺・大善寺など) (Map H-9) (Map I-9) (Map I-10)

バス停「衣笠城址」の辺りは、頼朝旗揚げ時の功労者、三浦大介義明の「衣笠城合戦」で知られる場所です。三浦一族が活躍した中世の「城」衣笠城は、天守閣があるようなものではなく、いわゆる「山城」であり、戦の際に岩とするものでした。

「衣笠城址」へは、衣笠インターチェンジすぐそばにある「追手口」の碑から「馬返し」の坂という急坂を上ります。

途中、「不動の井戸」「大善寺」などを経て、さらに上ると開けた場所に出ます。その高い所に、「衣笠城址」の碑があります。そこには「物見岩」といわれる大きな岩があり、そこからは四方の様子がよく見え、要害の地であったことが感じられるでしょう。

義明を祀る「満昌寺」の付近には、自然の岩壁を利用して彫った磨崖仏、三浦義明を祀る「近殿神社(ちかたじんじ)」や義達の五輪塔が残る「薬王寺跡」、手綱を繋いで磨り減った跡が残る「駒繫石(こまつなぎいし)」、「三浦義明百六つ」の歌を刻んだ歌碑のある「腹切松(はらざりまつ)公園」が散策できます。



不動の井戸



三浦半島の観光情報は
こちらから



マークの見方		凡 例	
	トイレ		JR
	障害者対応トイレ		私鉄
	三浦一族ゆかりの史跡・寺院		モノレール
	自然・公園		国道
	観光案内所		高速・有料道路
	駐車場		計画中
	大型車対応駐車場		ハイキングコース
			公園・緑地
			市区町界



【この地図は、国土地理院具の承認を得て、同院発行の
数値地図 25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平 24 情復 第 815 号)】
承認を得て作成した複製品を、第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の
長の承認を得なければならない。

